

●シンガポールビジネス日本語教育国際研究大会

(2015年11月21日, 22日 シンガポール)

報告者：堀井恵子（武蔵野大学大学院，主催者）

2015年11月21日, 22日の2日間にわたり，国際交流基金，シンガポール日本人会，シンガポール国立大学日本研究学科などの後援により，シンガポールビジネス日本語教育研究大会が，シンガポール日本人教師の会と日本語教育学会テーマ領域別研究会ビジネス日本語研究会の共催で開催され，日本，アセアン諸国，米国などから約130名が参加した。

大会では，アセアン経済共同体発足を前に，日本語を使って仕事をし活躍する日本語人財のニーズの高まる中，ビジネス関係者，日系企業で働くシンガポール国立大学の卒業生，そして日本語教育関係者が一堂に会し，「アジア諸国におけるビジネス日本語教育は何を目指すのか」というテーマで協議をした。

実行委員長ウォーカー泉・堀井恵子のオープニングに続き，日本国大使竹内晴久氏などの挨拶で開会式が行われ，パネル1「アジア諸国におけるビジネス日本語教育の現状と課題」では，インドネシア，マレーシア，タイ，ベトナム，フィリピン，シンガポールからの日本語教育関係者の発表があり，ビジネス日本語教育のニーズに対して教育実践の不足が共有された。パネル2「アジアの日系企業で働くグローバル人材に日本語は必要か」では，日系企業で働く卒業生，日系企業幹部，ビジネスコンサルタントによる体験に基づく報告から今後のビジネス日本語教育への示唆が大いに与えられた。続くワークショップ1「企業で起こっていることを教室へ：ケース学習とビジネスタスクから学ぶビジネスコミュニケーション」，ワークショップ2「あなたの知らない世界～現地スタッフの本音」にも大変多くの参加者があった。

2日目は3会場に分かれての口頭発表12本，並びにポスター発表8本が行われ，活発な質疑応答が行われた。発表は「ビジネス日本語能力育成につながる初級レベルからの日本語教育—シンガポール人ビジネスパーソンへの調査結果に基づく考察—」「留学生による職業的自己概念形成—日本企業でのインターンシップを通じたキャリア探究—」「元留学生の日本企業就職後の文化的社会化に関する研究—就職前の企業研究の重要性の提案—」「多言語職場における複数言語使用者のアイデンティティ—生涯学習としての言語学習を考える—」など多彩であった。発表後のパネル3「アジア諸国におけるビジネス日本語教育の課題と展望」では，大会のしめくりとして，ビジネス日本語教育が個人の人生にコミットするものであることが共有された。閉会式後，懇親会が開かれ川口義一氏によるミュージックソウと鼻笛に一同魅惑され，大会は幕を閉じた。

シンガポール日本語教師の会メンバーの素晴らしい運営のおかげで，ビジネス日本語教育研究についての活発な議論と情報交換，各国間の連携強化がなされ，実り多い大会となった。

大会に関するHPは，<https://sites.google.com/site/bjgsg2015/> であるが，ウェブ版論文集も近く公開される予定である。次回の国際研究大会は2017年3月にハノイで，ビジネス日本語研究会は2016年2月に開催される予定（<http://business-japanese.net/>）。